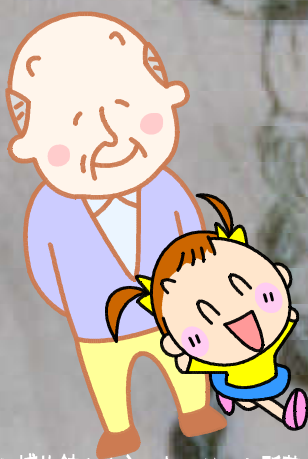


うしくでびっくり!

NO.21

ぞくぞく
いんげんぽんせつ



電子博物館みゆネットふじさわ所蔵
「絵本写宝袋武者尽」より

おくの地区社協
さく いいだあきお

あるなつのひのこと。

なっちゃんが、おかあさんと
さんぽをしていると

「あかさかというさかが、あ
るときいたんだけど、どこに
あるかしってる？」

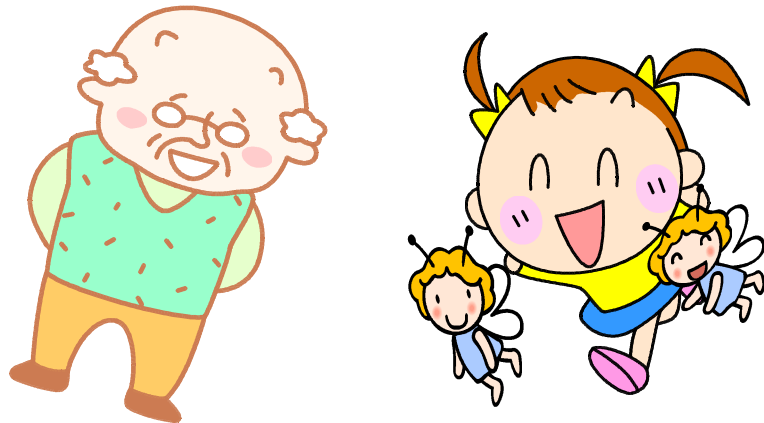
「知らないわねえ。おじい
ちゃんにきいてみれば・・・」

「そうか、よーし。きいてみ
よう」

わくわく



そのとき、ようせいがあらわれて、おじいちゃんのところにつれていってくれた。



なっちゃん、ものをよくしっている おじいちゃんが、だーいすき。

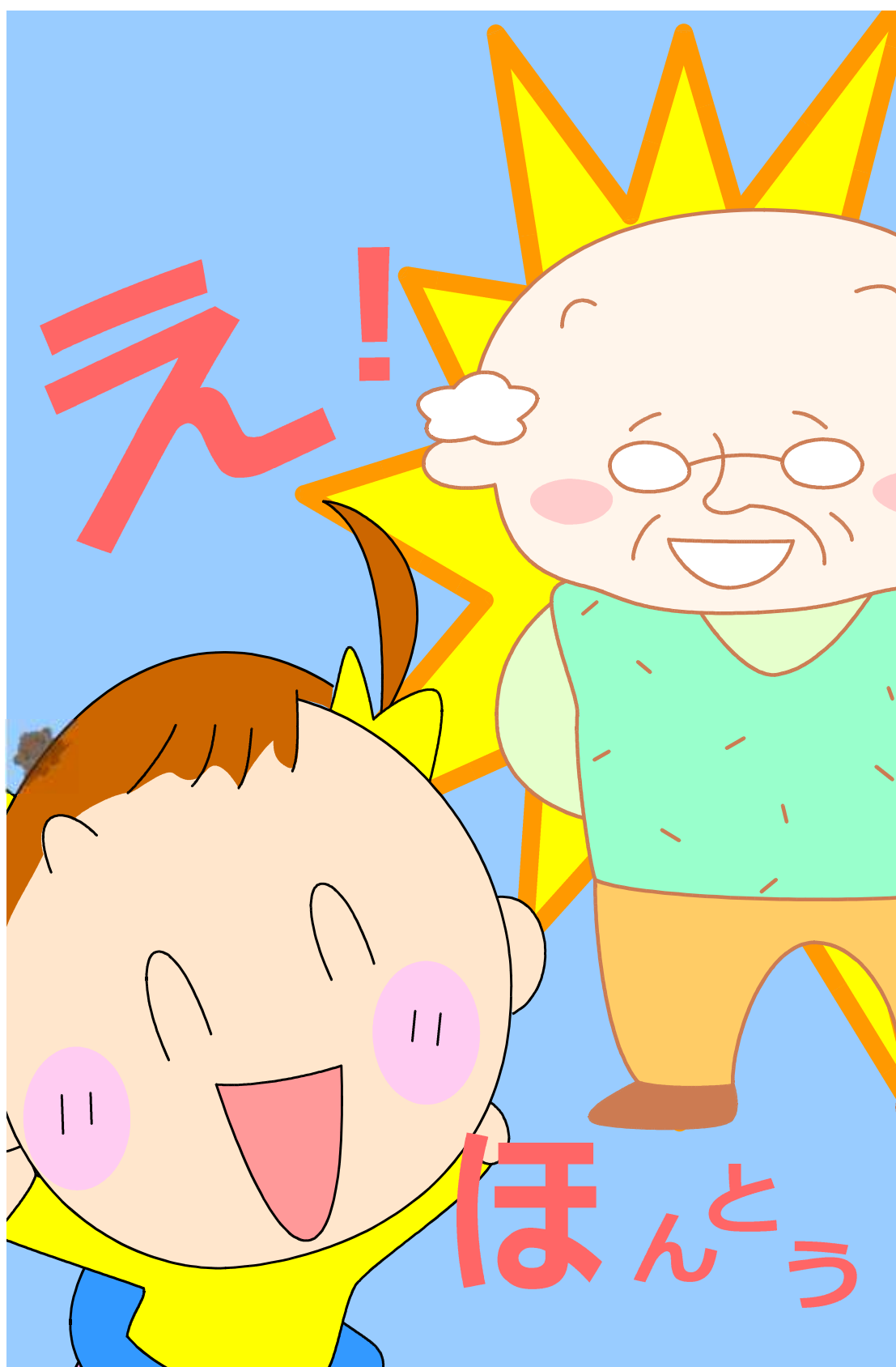
あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？



わたしは、なぜなぜでーす。



「そうか。あかさかね。そう
いえば、しまだのかまくらか
いどうにあかさかというさか
があるときいたことがある
な。くわしいことは、あきお
さんにきいてみようか？



やくそくのひ。おじいちゃん
とあきおさんのいえにいった。

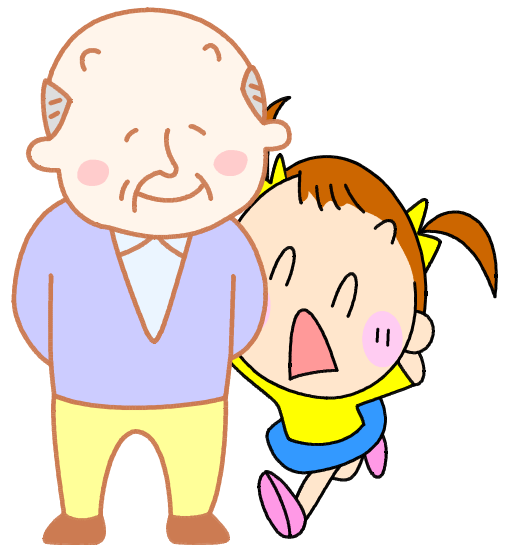
おじいちゃんは、ようじが
できて、いそいで かえって
いった。

なっちゃん、ゆうきをだし
て、

「あかさかって、どこにある
んですか？」

と きいてみた。

すると・・・



しまだのかまくらかいどう
にあるんだよ。ここだよ。

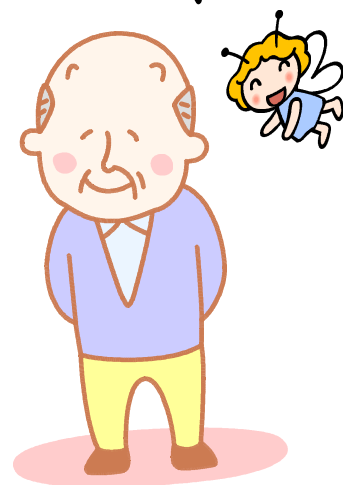


「あ！このあいださんぽしたところだ」
あかさかというのは、むかし、
このさかみちが、たたかいで、
ちでまっかにそまったことから
なづけられたんだよ。

「え！ほんとう。どんなたた
かいだったの？」

それはね。むかしむかし。
いまから1000ねんくらい
まえ。とうほくちほうでご3
ねんのえき（後3年の役）が、おき
たんだ。そこで、かつやくし
たのが、かまくらごんごろう
（鎌倉権五郎）だ。

ごんごろうは、やく3ねん
のながいたたかいに、わかさ
（若さ）とごうき（剛毅）さで、だ
いかつやく。
そして・・・。



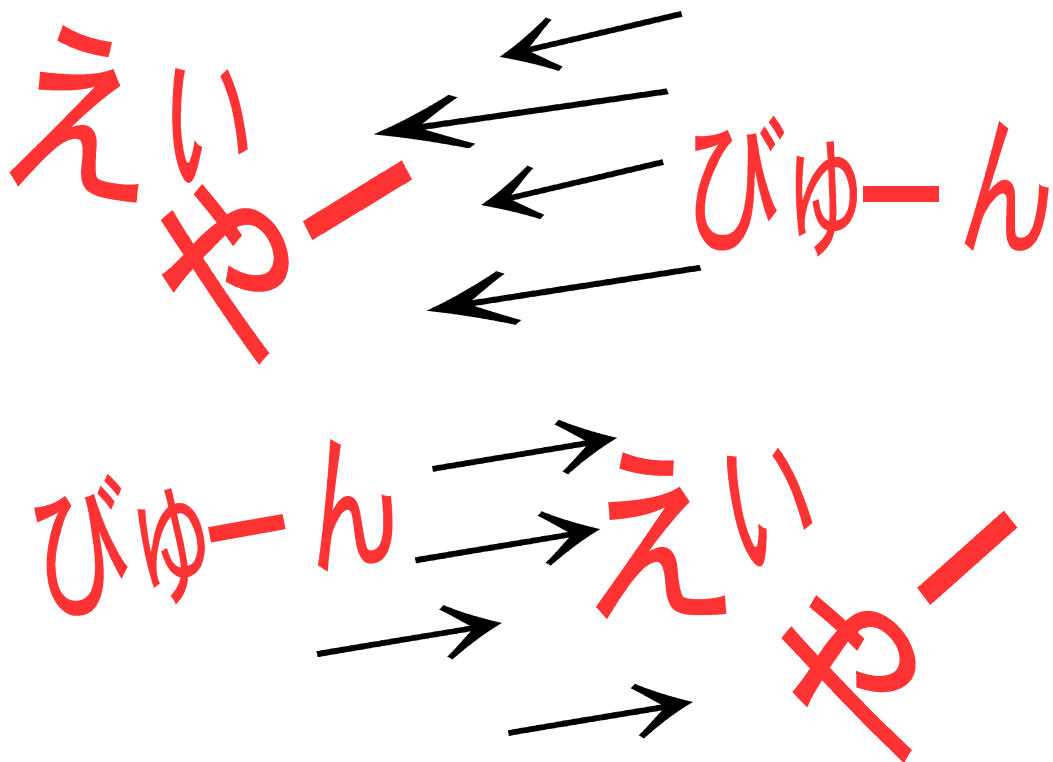
いきようようとかまくらにかえるとちゅう……。てきのとりうみやさぶろう（鳥海弥三郎）にみつかってしまった。すくないにんずうだとわかったとりうみぐん。いっせいにこうげきをかいし。

さあ、たいへん。ふいをつかれたごんごろう。

さあ、どうする、どうする？



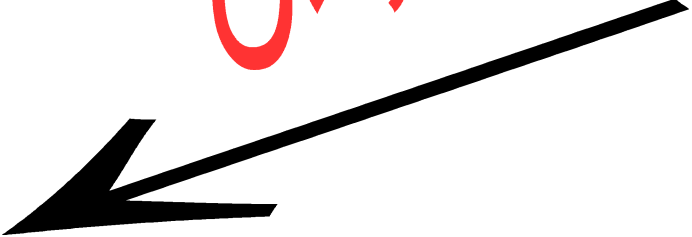
と、おもったら、**ごんごろう**
のめいれいのもと、いちがん
となって、おうせん！



はげしい たたかいに
なった。~~や~~が、とびかうな
か、まえにすすんでいった。
すごい！

そのとき、1ぽんのやが

びゅーん
びしっ



ごんごろうの みぎのめに
めいちゅう。

いたたた！

それでも ひるまず、



とりうみ（鳥海）のぐんぜい
をしまだのさかまで、おいつ
めて、た
いしょう
をうちと
った。



びっくり！
すごい！

ここに とりうみやさぶろうのはかがある



市史跡小坂城址：牛久市教育委員会より引用

たいちょうをうしなつたと
りうみのぐんぜいは、われさ
きににげだした。ごんごろう
は、てきをだいちのはしまで
おいつめて、うちはたすと、
そこに、しろいはたをおさめ
たんだ。のちにほこらがたて
られ、しらはたやまじんじゃ
(白旗山神社) とよばれるようにな
ったんじゃ。



※しらはたやま
は、どうして、
しろはたやまじ
ゃないのかな？

「けがした**ごんごろう**は、どうしたの？」

けがのてあてをするために、**おつとがわ**のちかくにいった。

そこで、しみずのわきでる**いけ**をみつけると、めをあらいい、かえりちをおとしたんだ。のちにこのいけは**おみたらしのいけ**とよばれるようになり、このふきんは、**あかい** (赤井) とよばれるようになっただ。



みたらしのいけ
(いまは、みずがないよ！)



いけからちかい **おつとがわ**
のはしのたもとで、 **ためつぐ**
が、めにささったやをぬこう
と かおにあしをかけた。す
ると

「ぶしのかおを どそくで、
ふむとは、なにごとか！」
と いかった。

ためつぐは、あやまって、
ひざで、おさえて やを や
っと ぬいた。

ぬいたやは、ちかくの **ふど**
うそん (矢の根不動尊) におさめら
れた。

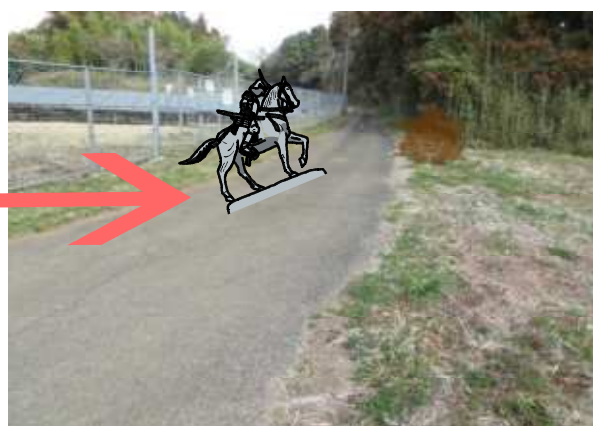
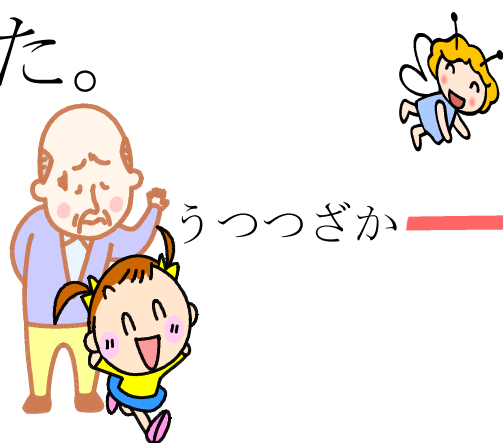


矢の根不動尊



やまのむこうに**かつらむら**
(桂村) があるとおしえられた
ごんごろうは、**おつとがわ**に
かかるはしを うまのせにも
たれながらわたった。むらに
はいるためには、きゅうなさ
かみちをのぼらなければなり
ません。けがと、てきをうち
はたしたあんしんかんで、ゆ
めうつつで、やつとさかをの
ぼりました。

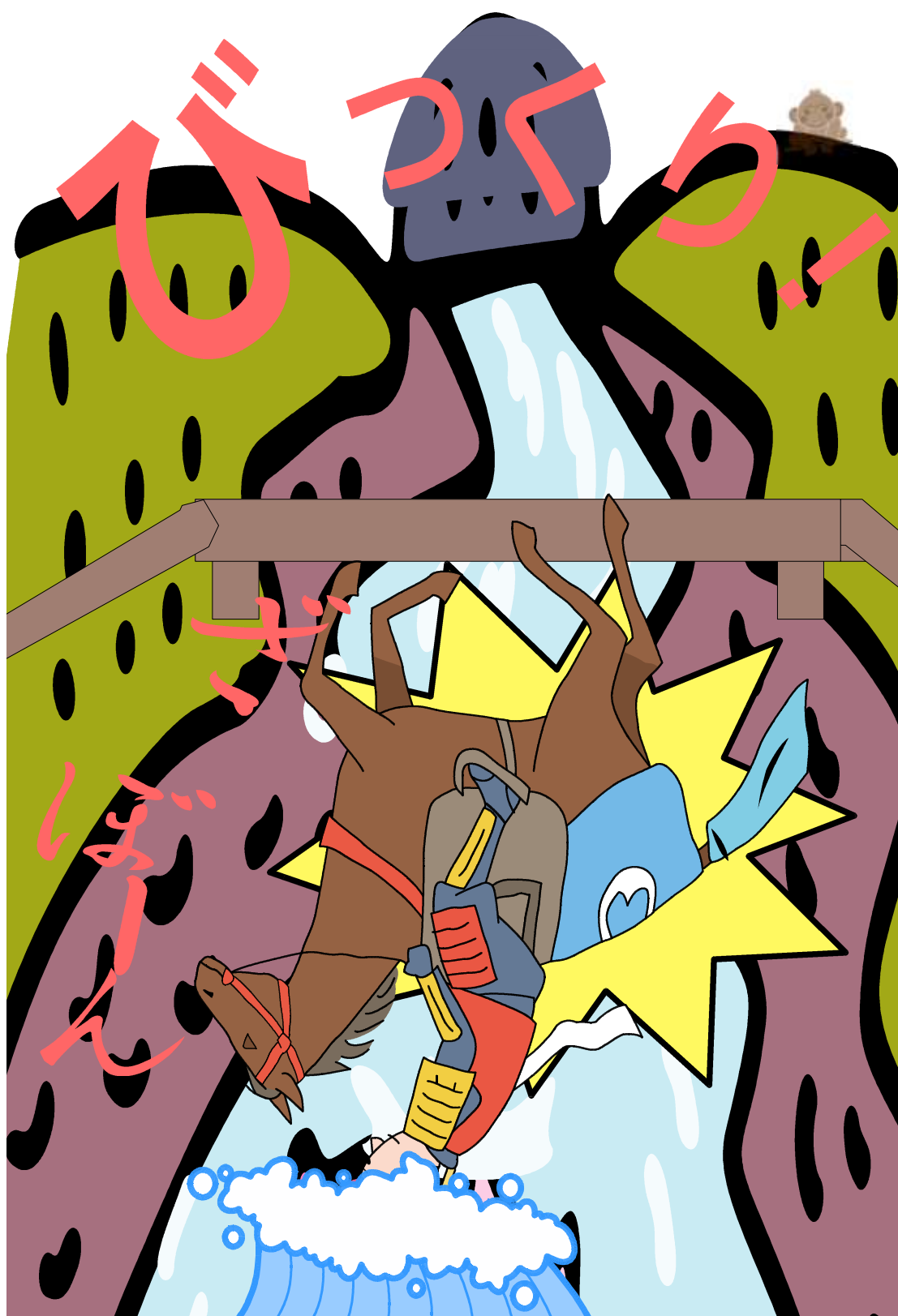
のちに このさかは、**うつ**
つざかとよばれるようになっ
た。



やっと、よるかつらむ
らにたどりつき、かわむ
こうのしょうでんじをめ
ざした。とちゅうかつら
がわにかかるまるきばし
をうまにのって、わたろ
うとした。そのとき、

あ！

あしが、すべて



かわに おちてしまっ
た。

ばたばた
ばたばた

なんども はいあがろうとし
たが、ちからつきそのまま
しずんでしまっ
た。このはなし
を きいたさ
のひとたちは、
ふかくかなしみ・・・



かつらがわ



おはかをつくって、くようした。

なっちゃんは、**ごんごろう**
が、つよいいと やさしい
ところをもったほこりたかき
おとこだったことが、よく
わかった。

だから、い
までもあかさ
か・うつつざ
か・おみたら
しのいけとい



ごんごろうのはか

うちめいがのこっていたり、
おはかもつくられているん
だ。(なんと、よろい・かぶともよしだしたくにはほ
ぞんされているそう)

やっぱり、ごんごろうは、
おくのたからものなんだ。

さて、つぎは、なにをしら
べようかな？



あれあれ？「すごーく、たのしかった」と なぜなぜくん。
つぎのひみつをもとめてスキップしながらかえっていった。よ
うせいも にこにこしながらかえっていった。



またね

(さんこうしりょう)

牛久むかしばなし三「鎌倉権五郎影政」